



第7回

名古屋がん疼痛

緩和フォーラム

愛知県がん・国交センター



2009.7.25

人形劇・ムッシュ・デプレに訊く ver.5



もしも「うつ病」が話したら？

「ムッシュ・デプレ」とは、「Depression＝うつ病」を擬人化したものです。わざわざこんな人形劇を提供するのは、問題の定義において遊び心を加味し、患者さんとご家族、そして医療従事者が問題に対してラディカルに共同戦線を張ればと思うからです。

抗うつ薬を三ヶ月のんで治るうつは、いいでしょう。しかし、それが慢性化したとしたら？ うつ病が長引けば、問題と患者さんの性格傾向との境界がはつきりしなくなります。極端な場合、症状が悪意と解釈されかねません。そうなれば、治療は視野狭窄に陥り、リハビリも進みません。ですから、絶えず問題と患者さんを分けて考える習慣が必要になるわけです。

「ムッシュ・デプレに訊く」は、そんな習慣を手軽に身につけられるように作成されました。第一幕ではデプレの戦略が、そして第二幕では患者さんたちの自前の対処法が、あきらかにされていきます。

さて、百聞は一見に如かず。上記フォーラム第一部「精神腫瘍学」(小森康永)での世界初演をお見逃しなく！



外在化心理教育とは

「問題が問題なのであって、人間やその人間関係が問題なのではない」

<White & Epston, 1990>

病気と患者個人を分けて考えることを推奨する試みは、既に世界各地で実践されています。アフリカ、マラウイのエイズ対策「ミスター・エイズとミセス・ケア」、オーストラリアでのアボリジニの糖尿病対策「シュガー」、日本の統合失調症教育「ミスター・スキズ」、オーストリアの摂食障害治療「Ana Ex」、そして今、うつ病にも拡大されました。

愛知県がんセンター中央病院緩和ケアチーム通信:

1